

2013 年度

浦和ルーテル学院小中高等学校

学校評価報告書

2014 年 5 月 26 日

浦和ルーテル学院学校評委員会

浦和ルーテル学院小中高等学校 学校評価報告書

【目次】

- 1、2013年度浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び評価委員会設置要綱
 - 1、学校評価実施の趣旨<1>
 - 2、評価委員会設置要綱<2>
 - 3、自己評価アンケート項目の設定基準<3>
 - 4、2013年度自己評価アンケート調査項目<4>
 - 5、自己評価アンケート調査結果の処理方法<7>
- 2、学校評価アンケート集計結果<8>
- 3、学校評価アンケートの結果考察<23>
- 4、学校関係者評価委員会・懇話会議事録及び授業参観まとめ<27>
- 5、改善への対策<34>
- 6、第三者委員報告書<35>

1、2013年度浦和ルーテル学院学校評価実施要領及び評価委員会設置要綱

2013、9、12 学校評価委員会

1、学校評価実施の趣旨

2007年（平成19年）6月の学校教育法改正、同10月の学校教育法施行規則改正により自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、2008年4月より実施が義務付けられました。その目的について文部科学省では次の3点を挙げています。

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定しその状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより学校として組織的、継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

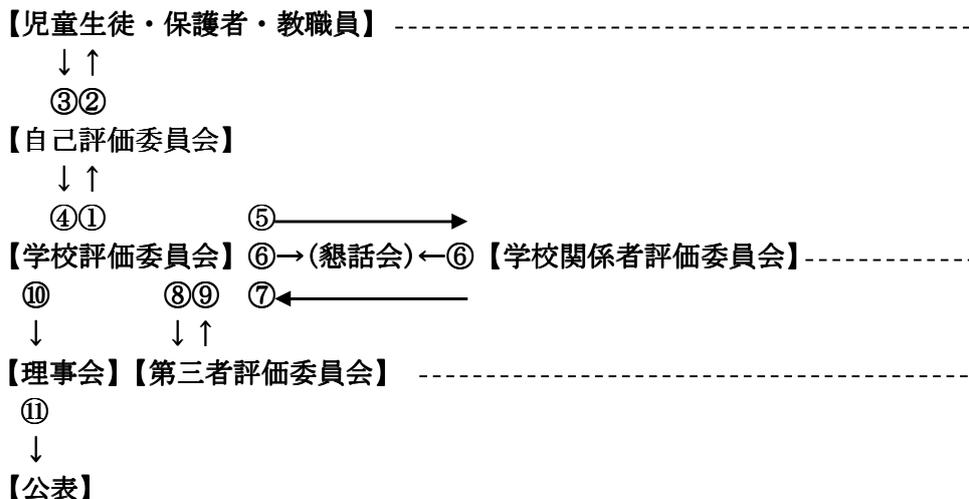
私立学校では上記3点を含め、あらゆる分野において改善・向上を目指し、組織的・継続的に努力を重ねています。私立学校の「建学の精神」とその実現を目指す日々の実践は常に厳しい評価にさらされています。すなわち存続そのものが評価であり、絶えざる改善・向上の取り組みなくして存続はありません。学院では内外の評価委員の忌憚のない評価をもとに、学院の教育活動の長短の現状を検証し、より良い教育活動の実現に結びつけることが大切と考えます。

※学校評価のスケジュール

| | |
|-------|---------------------------------|
| 9月 | 2013年度学校評価実施要領決定 |
| 10月 | 児童生徒・保護者・教師学校評価アンケート調査 |
| 11月 | 学校評価委員会がアンケート調査結果を学校関係者評価委員会へ提出 |
| 11月 | 第1回授業参観及び学校関係者評価委員懇話会 |
| 2月 | 第2回授業参観及び学校関係者評価委員懇話会 |
| 3月 | 学校関係者評価委員による報告書作成及び学校評価委員会へ提出 |
| 3月 | 第三者評価委員による評価報告書作成及び学校評価委員会へ提出 |
| 3月～4月 | 学校評価委員会より理事会へ報告 |
| 5月 | 報告書公表 |

2、評価委員会設置要綱

(1) 評価委員会の組織図



(2) 各委員会の役割 (文中の①～⑪は組織図の数字に対応する)

i 学校評価委員会

校長（委員長）、教頭（副委員長）、以下学校運営委員会のメンバー7名により構成され、自己評価委員会、学校関係者評価委員会、第三者評価委員会及び懇話会の職務内容を決め次の職務を遂行する。

- ① 自己評価委員会へ評価資料の収集を依頼する。
- ④⑤ 自己評価委員会の評価資料を基に報告書を作成し学校関係者評価委員会へ提出する。
- ⑥ その後懇話会を開催し学校関係者評価委員会へ資料を提供する。
- ⑦⑧ 学校関係者評価委員会の報告を受けて第三者評価委員会へ提出し評価を依頼する。
- ⑨⑩⑪ 第三者評価委員会の報告を受けて理事会へ報告し、公表する。

ii 自己評価委員会

学校評価委員で構成し、委員長を教頭、副委員長を各部長とする。各部の部長は副部長と共に小中高の連携をとり、その部を中心に次の職務を遂行する。校務分掌主任及び教科主任はこれを補佐する。

- ①② 学校評価委員会の計画を受けてアンケート調査等を実施する。
- ③④ 調査結果を集計し委員長へ提出する。事務長を中心に財務等の自己評価報告書を作成し委員長へ提出する。
- ⑤ 委員長は集計結果を受けて各部の自己評価報告書を作成し、学校評価委員会へ提出。

iii 学校関係者評価委員会

PTA 四役より1名、評議員より1名、同窓会役員より1名で構成し、次の職務を遂行する。

- ⑤⑥⑦ 学校評価委員会よりの自己評価報告書を精査し、懇話会を経て学校関係者評価委員
会報告書を取りまとめそれを学校評価委員会へ提出する。(必要に応じて授業参観、
意見聴取、アンケート調査等を行なう)

iv 第三者評価委員会

第三者により構成し(1人でも可)、次の職務を遂行する。

- ⑧⑨ 学校評価委員会より最終報告を受け精査し、これを学校評価委員会へ提出する。

2013 年度学校評価各委員会一覧

| 委員会 | 構成委員 |
|----------------|--|
| i 学校評価委員会 | 藤倉二三男校長（委員長）、福島宏政教頭（副委員長） 東海林敏雄理事長、坂根岳志初等部長、後藤里志初等部副部長 長谷川久中高等部長、今村基洋中高等部副部長、小澤聖一事務長 |
| ii 自己評価委員会 | 福島宏政教頭（委員長）、坂根岳志初等部長（副委員長）、 長谷川久中高等部長（副委員長）、東海林敏雄理事長、藤倉二三男校長、 後藤里志初等部副部長、今村基洋中高等部副部長、小澤聖一事務長 |
| iii 学校関係者評価委員会 | 秋元利英氏（PTA会長）、安藤誠四郎氏（評議員）、小林賢太郎氏（同窓会会長） |
| iv 第三者評価委員会 | 清重尚弘氏（九州ルーテル学院院長・九州ルーテル学院大学学長） |

3、自己評価アンケート項目の設定基準

(1) 「自己評価アンケートは網羅的で細かなチェックを行なうのではなく、重点化された目標を設定し精選して実施するものである」という文部科学省通達の趣旨に従いアンケート項目を設定した。

(2) 2008～2010 年度の 3 年間は「目指す学校像」、「学習」、「生活」、「行事」の 4 分野に対する意識調査を 22 の詳細項目にわたって調査し、有意な一定の結果を得た。2011 年度は継続調査として上記 4 項目を細分化せずに、ざっくりと 4 項目の満足度を調査した。

同時に新しい試みとして、学院の日頃の教育活動に対する満足度を知るため、新たな 4 項目「意見聴取の機会」「教師同士のコミュニケーション」「情報公開」「安全対策」の満足度調査と 2 項目「学院は学習指導と生活指導のどちらに力を入れているか」「どちらに力を入れて欲しいか」の優先順位調査を実施した。

2012 年度は評価委員の助言を参考に、学院の教育方針に対する満足度を率直に正面から問うことにした。これが児童生徒・保護者用アンケートの VI、VII「人格的成長と学力的成長の両立達成度」と「優先度」についての設問である。

さらに教師用のアンケートでは保護者がどちらを欲しているか推察する問いも実施した。教師（学院）と保護者の意識の乖離または一致度を知るためである。

2013 年度はこれらの経過を踏まえた上で、項目ごとに意見や要望を記入してもらう欄を設けた。学校が問題点を具体的に把握し、解決に向けての取り組みをしやすいするためである。

(3) 建学の精神、今年度の重点目標、教育方針は以下のようになっている。

建学の精神「神と人とを愛する人間、神と人にと愛される人間」

重点目標 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

教育方針

- ・ ころ豊かな、知性を備えた児童生徒の育成
- ・ 各自の個性を尊重し、創造性豊かな児童生徒の育成
- ・ 英語教育の徹底と国際的視野の向上を図り、国際人として社会に貢献できる児童生徒の育成
- ・ 運動を通して強健なころと身体をつくり、神と人にと奉仕する児童生徒の育成

4、2013年度自己評価アンケート調査項目

【 児童生徒・保護者用 】ご意見ご要望がありましたら、項目ごとの に、具体的にご記入下さい。

I. 過去5年間の継続調査

〔A〕 建学の精神等、学院の根幹を成す学院の指導全般について

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

〔B〕 学習指導に対する学院の取り組みについて

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

〔C〕 人格教育に対する学院の取り組みについて

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

〔D〕 行事全般に対する学院の取り組みについて

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

II. 学院があなたの意見等聞く機会を作ってくれていると感じますか

- (1) 大いに感じる。 (2) まずまず感じる。
(3) あまり感じない。 (4) ほとんど感じない。

III. 学院の教師どうしのコミュニケーションについてどのように感じますか

- (1) 大いに取れていると感じる。 (2) まずまず取れていると感じる。
(3) あまり取れていないと感じる。 (4) ほとんど取れていないと感じる。

IV. 学院の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開や隠し事等について

- (1) 十分に情報公開し、隠し事がほとんどないと感じる。
(2) まずまず情報公開し、隠し事がまずまずないと感じる。
(3) あまり情報公開せず、隠し事が多少あるように感じる。
(4) ほとんど情報公開せず、隠し事が非常に多いと感じる。

V. 学院の安全対策全般についてどのように感じますか

- (1) 大いに対策をとっていると感じる。 (2) まずまず対策をとっていると感じる。
(3) あまり対策をとっていないと感じる。 (4) ほとんど対策をとっていないと感じる。

VI. 建学の精神にもとづいて「人格的な成長」(豊かで強健な心、個性、創造性など)を促し、「学力的な成長」も達成するのが学院の教育方針です。この方針は達成できていると感じますか

- (1) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方とも大いに達成できている。
(2) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方ともまずまず達成できている。
(3) 「人格的な成長」は達成できているが、「学力的な成長」は不十分だと感じる。
(4) 「人格的な成長」は不十分だが、「学力的な成長」は達成できていると感じる。
(5) 両方とも不十分である。

VII. 上記の方針について、あなたは次のどれを望みますか

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい。
(2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい。
(3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい。
(4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい。
(5) 現在の方針を堅持して欲しい。

【 教師用 】

I. 過去5年間の継続調査(自分自身の努力に対する満足度)

[A] 建学の精神等、学院の根幹を成す指導全般に関するあなたの満足度は?

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である

[B] 学習指導に関するあなたの満足度は?

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

[C] 人格教育に関するあなたの満足度は?

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

[D] 行事全般に関するあなたの満足度は？

- (1) 大いに満足している。 (2) まずまず満足している。
(3) やや不満である。 (4) 大いに不満である。

II. 学院（あなた）は保護者・児童生徒の意見等を聞く機会を作っていると思いますか

- (1) 大いに思う。 (2) まずまず思う。
(3) あまり思わない。 (4) ほとんど思わない。

III. 学院（あなた）の教師どうしのコミュニケーションについてどのように感じますか

- (1) 大いに取れていると感じる。 (2) まずまず取れていると感じる。
(3) あまり取れていないと感じる。 (4) ほとんど取れていないと感じる。

IV. 学院（あなた）の児童生徒、保護者及び外部に対する情報公開や隠し事等について

- (1) 十分に情報公開し、隠し事がほとんどないと感じる。
(2) まずまず情報公開し、隠し事がまずまずないと感じる。
(3) あまり情報公開せず、隠し事が多少あるように感じる。
(4) ほとんど情報公開せず、隠し事が非常に多いと感じる。

V. 学院（あなた）の安全対策全般についてどのように感じますか

- (1) 大いに対策をとっていると感じる。 (2) まずまず対策をとっていると感じる。
(3) あまり対策をとっていないと感じる。 (4) ほとんど対策をとっていないと感じる。

VI. 建学の精神にもとづいて「人格的な成長」（豊かで強健な心、個性、創造性など）を促し、「学力的な成長」も達成するのが学院の教育方針です。この方針は達成できていると感じますか

- (1) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方とも大いに達成できている。
(2) 「人格的な成長」と「学力的な成長」の両方ともまずまず達成できている。
(3) 「人格的な成長」は達成できているが、「学力的な成長」は不十分だと感じる。
(4) 「人格的な成長」は不十分だが、「学力的な成長」は達成できていると感じる。
(5) 両方とも不十分である。

VII. 上記の方針について、保護者はどのように欲していると思いますか。

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい。
(2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい。
(3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい。
(4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい。
(5) 現在の方針を堅持して欲しい。

Ⅷ. 上記の方針について、あなたは次のどれを望みますか

- (1) あきらかに「学力的な成長」を重視して欲しい。
- (2) どちらかという「学力的な成長」を重視して欲しい。
- (3) あきらかに「人格的な成長」を重視して欲しい。
- (4) どちらかという「人格的な成長」を重視して欲しい。
- (5) 現在の方針を堅持して欲しい。

5、自己評価アンケート結果の処理方法

※Ⅰ～Ⅴについての数値は(1)～(4)をポイント化して満足度を表したものである。

- (1) 大いに満足している…3点 (2) まずまず満足している…2点
- (3) やや不満である…1点 (4) 大いに不満である…0点

回答総数12名の場合

例1 (1) 12人 (2) 0人 (3) 0人 (4) 0人
 $(3点 \times 12人) + (2点 \times 0人) + (1点 \times 0人) + (0点 \times 0人) = 36点$
 $36 \div (3点 \times 12人) \times 100 = 100ポイント$

例2 (1) 6人 (2) 6人 (3) 0人 (4) 0人
 $(3点 \times 6人) + (2点 \times 6人) + (1点 \times 0人) + (0点 \times 0人) = 30点$
 $30 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 83ポイント$

例3 (1) 3人 (2) 3人 (3) 3人 (4) 3人
 $(3点 \times 3人) + (2点 \times 3人) + (1点 \times 3人) + (0点 \times 3人) = 18点$
 $18 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 50ポイント$

例4 (1) 0人 (2) 0人 (3) 6人 (4) 6人
 $(3点 \times 0人) + (2点 \times 0人) + (1点 \times 6人) + (0点 \times 6人) = 6点$
 $6 \div (3点 \times 12人) \times 100 \approx 17ポイント$

全員が大いに満足していれば満点で100ポイントとなり、各項目が均衡していれば満足度50ポイント、全員が大いに不満なら0ポイント。一般に満足度60ポイント以上で正常とされている。

※Ⅵ～Ⅶ(Ⅷ)についての数値は回答総数に対するパーセンテージを表す。